**23 『師説』**

　　　　、　㆑　師。師　　㆓　㆑　＊　＊㆑　　  
＊㆒㆑　也。①　㆓　　而　㆑　　㆒。②孰　能　無㆑　惑。　而　㆑　㆑　、　㆑　　、ⓐ　不㆑　　矣。㆓　乎　　㆒、　㆑　　也、　㆓　乎　㆒　吾　　而　㆑③。㆓　乎　　㆒、　㆑　也、　㆓乎　㆒、吾　　而　㆑　④。　㆑　　也。⑤　　㆔　　年　之　㆓‐‐　於　㆒　。　ⓒ　㆑　　㆑　、㆑　　㆑　、⑥（Ａ）之　㆑　、（Ｂ）之　所㆑　　也。

語　注

道＝昔の聖人が伝えた、人として行うべき道。

授㆑業＝学業を授ける。

解㆒㆑惑＝迷いを解決する。

固＝当然いうまでもなく。

先㆓‐後‐生＝三文字で一語。先に生まれたか、後から生まれたか。

問1　二重傍線部ⓐ「終」・ⓑ「固」・ⓒ「故」の読みを送り仮名も含めて、歴史的仮名遣いで答えよ。（2点×3）

ⓐ〔　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　〕　ⓒ〔　　　　　〕

問2　傍線部①「人非㆓生而知㆑之者㆒」の「之」の内容を明らかにして、口語訳せよ。（8点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問3　傍線部②「孰能無㆑惑」の読み・句形をそれぞれ次から選べ。（読み3点・句形2点）

《読み》　ア　いづくにかよくまどひなからん。

　　　　　イ　たれかよくまどひなからん。

　　　　　ウ　なにをかよくまどひなからん。

　　　　　エ　いくばくかよくまどひなからん。

　　　　　オ　いづくんぞよくまどひなからん。

〔　　　〕

《句形》　ア　詠嘆形　　イ　疑問形　　ウ　反語形

　　　　　エ　否定形　　オ　仮定形

〔　　　〕

問4　傍線部③・④「之」の指す内容として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。（4点×2）

③　ア　自分より年長で先に道を会得した人。

　　イ　年齢に関係なく道を探求している人。

　　ウ　自分より年齢が下でともに学問を志す人。

　　エ　自分と同年配ですでに道を見つけた人。

　　オ　私より年齢の高い師を見つけた人。

〔　　　〕

④　ア　自分と同年配で道をよく知る人。

　　イ　同年配で人々に道を教えている人。

　　ウ　年齢が下でも先に道を会得している人。

　　エ　年齢に関係なく先に道を見つけた人。

　　オ　若年でも私より道の会得に努めている人。

〔　　　〕

問5　傍線部⑤「夫庸知㆔其年之先㆓後‐生於吾㆒乎」を平仮名ばかりで書き下せ。（7点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問6「師」とはどのような人か、最も適当なものを次から選べ。（6点）

ア　人々の悩みを解決し、快適な生活を保障してすばらしい人生を与えてくれる人。

イ　持って生まれた運命について説きながらも、人として努力することを教えてくれる人。

ウ　人としての道を伝え学問を授け、誰にでもある人の迷いを解いてくれる人。

エ　昔の学問や宗教の道を広め、正しい生き方を授け、己の無知から救ってくれる人。

オ　人はなぜ生まれどうして死んでいくのか、また人生をどのように生きていくかを教えてくれる人。

〔　　　〕

問7　傍線部⑥はこの文の主題である。空欄Ａ・Ｂに入る語として最も適当なものを、それぞれ本文中から抜き出せ。（5点×2）

Ａ〔　　　　　　　　　　〕　Ｂ〔　　　　　　　　　　〕

練習問題〈疑問形・反語形〉

次の各文について、空欄を埋めて書き下し文を完成させ、口語訳せよ。ただし、①・②は平仮名で答えよ。

①北　　文　　何　如。

のは（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

北方の文学者（の能力）は（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

②　兮　　兮　奈㆑　　。

やや（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

虞よ虞よ（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

③百　獣　之　㆑　、而　　㆑　　乎。

のをて、（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

獣たちは私を見て、（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

④子　　　㆑　　哉。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

あなたは（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

【解答】

問1　ⓐつひに　ⓑもとより　ⓒゆゑに

問2　人は生まれついて道を知っている者ではない。

問3　（読み）イ　（句形）ウ

問4　③＝ア　④＝ウ

問5　それなんぞそのとしのわれよりせんこうしてうまるるをしらんや

問6　ウ

問7　Ａ＝道　Ｂ＝師

【練習問題解答＋口語訳】

①いかん／どのようであるか

②なんぢをいかんせん／お前をどうしたらいいか。いや、どうしようもない

③敢へて走らざらんや／どうして逃げないことがあろう。いや、きっと逃げる

④豈に能く怪しむこと毋からんや／どうして怪しまないだろうか。いや、きっと怪しむ